記者発表資料

令 和 3 年 8 月 6 日
国土交通省東北地方整備局

令和2年東北地方一級河川の水質現況（訂正のお知らせ）

令和３年７月１日に記者発表いたしました「令和２年東北地方一級河川の水質現況」につきまして、一部の記述に誤りがありましたので、お詫びして以下のとおり訂正いたします。

１．主要河川の地点別年平均水質（P.1）
全２０河川９１地点のうち、４河川８地点の BOD 年平均値について訂正

（単位：mg/l）

水系名	河川名	地点名	BOD年平均値	
			誤	正
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	1.1	0.7
		下中ノ目	0.8	0.7
		南郷	0.9	0.7
		小野	1.1	0.7
北上川	北上川	北上大橋	0.9	0.8
	胆沢川	望み大橋	0.5	0.6
米代川	米代川	十二所	0.8	0.7
		新真中橋（真中橋）	0.7	0.6

４．住民参加による水質調査（P.7）
③「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の調査結果
評価指標名及び調査地点の年間評価ランクについて訂正

【誤】③「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」⇒【正】③「豊かな生態系の確保（湖沼）」

水系名	河川名	地点名	年間評価ランク	
			誤	正
阿武隈川	阿武隈川	摺上川ダム	A	C

※本資料は訂正のうえ東北地方整備局ホームページ内で掲載します。
http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/plaza/jiko/suisitu_top/index_suisitu_top.html

＜発表記者会＞青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、
山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

［本件に対するお問い合わせ先］
国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
課　　長　八木（やぎ）　恵里（えり）（内線 ３６５１）
課長補佐　安倍（あんばい）　浩哉（こうや）（内線 ３６５６）
仙台市青葉区本町３－３－１　仙台合同庁舎Ｂ棟
℡ 022-225-2171（代）　FAX 022-215-3754

令和２年

東北地方
一級河川の水質現況



Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

2020

1. 主要河川の地点別年平均水質
2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況
4. 住民参加による水質調査
5. ダイオキシン類実態調査結果
6. 水質事故等の発生状況

コラム

鳴瀬川・北上川（下流）

～水環境保全の取り組み～

令和２年東北地方一級河川の水質現況

CONTENTS

１．主要河川の地点別年平均水質 …… 01

２．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況 …… 02

３．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況 …… 03

４．住民参加による水質調査 …… 04

　１）今後の河川水質管理指標による調査 …… 04

　２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査） …… 08

５．ダイオキシン類実態調査結果 …… 09

６．水質事故等の発生状況 …… 10

コラム

鳴瀬川・北上川（下流）

～水環境保全の取り組み～ …… 12

（参考資料）各調査地点（ＢＯＤ・ＣＯＤ）調査結果及び満足状況 …… 15

１．主要河川の地点別年平均水質

令和２年水質調査結果

・　阿武隈川水系荒川が１１年連続で
「平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川※」となりました。

令和２年の東北地方 20 河川の水質状況

（単位：mg/ℓ）

水系名	河川名	調査地点		各地点のBOD年平均値
		地点数	府県名	
阿武隈川	阿武隈川（あぶくまがわ）	7	宮城 福島	須賀川 1.1 阿久津 1.1 高田橋 2.4 黒岩 1.7 伏黒 1.3 丸森 2.0 岩沼 1.2
阿武隈川	荒川（あらかわ）	2	福島	荒川橋 <0.5 信夫橋 <0.5
名取川	名取川（なとりがわ）	2	宮城	名取橋 1.1 閖上大橋 0.9
鳴瀬川	鳴瀬川（なるせがわ）	4	宮城	三本木 0.7 下中ノ目 0.7 南郷 0.7 小野 0.7
鳴瀬川	吉田川（よしだがわ）	2	宮城	落合 1.2 鹿島台 1.2
北上川	北上川（きたかみがわ）	16	岩手 宮城	船田橋 0.7 四十四田橋 0.8 南大橋 0.9 紫波橋 1.1 朝日橋 1.3 昭和橋 1.3 珊瑚橋 1.3 金ヶ崎橋 1.3 藤橋 1.4 狐禅寺 1.0 北上大橋 0.8 北上川橋 0.9 大泉 0.8 登米 0.8 飯野川 0.7 飯野川橋 0.6
北上川	旧北上川（きゅうきたかみがわ）	3	宮城	和渕 0.8 鹿又 0.8 門脇 0.8
北上川	江合川（えあいがわ）	4	宮城	轟 0.6 荒雄 0.8 短台 0.9 大深沢 0.8
北上川	和賀川（わがわ）	3	岩手	山室橋 0.6 九年橋 1.1　切留 0.7
北上川	猿ヶ石川（さるがいしかわ）	3	岩手	落合橋 0.6 安野橋 1.4　谷内 0.7
北上川	胆沢川（いさわがわ）	3	岩手	再巡橋 1.1 下嵐江 0.5 望み大橋 0.6
馬淵川	馬淵川（まべちがわ）	3	青森	櫛引橋 0.8 尻内橋 0.7 大橋 0.7
岩木川	岩木川（いわきがわ）	12	青森	上岩木橋 0.6 安東橋 0.6 幡龍橋 1.2 鶴寿橋 1.5 乾橋 1.6 三好橋 1.4 神田橋 1.2 津軽大橋 1.5 十三湖大橋 1.0 十三湖中央 2.0 山田川河口 1.8 鳥谷川河口 1.8
米代川	米代川（よねしろがわ）	5	秋田	十二所 0.7 新真中橋(真中橋) 0.6 鷹巣 0.7 二ツ井 0.6 能代 0.7
雄物川	雄物川（おものがわ）	5	秋田	酒蒔橋 0.5 雄物川橋 0.6 大曲橋 0.8 岳見橋 0.6 椿川 0.7
雄物川	玉川（たまがわ）	2	秋田	長野 0.5 玉川橋 0.5
子吉川	子吉川（こよしがわ）	2	秋田	宮内 0.7 本荘大橋 0.5
最上川	最上川（もがみがわ）	8	山形	糠野目 1.2 長井橋(小出) 1.3 谷地橋（下野） 1.1 碁点橋（稲下） 1.6 堀内 0.9 高屋 0.6 砂越 0.7 両羽橋 0.7
最上川	鮭川（さけがわ）	2	山形	八千代橋 0.5 戸沢橋 0.6
赤川	赤川（あかがわ）	3	山形	東橋 0.5 蛾眉橋(横山) 0.6 新川橋(浜中) 0.6

表中のくは、定量下限値であることを示す。

※「平均的な水質が最も良好な河川」
対象河川のうち以下の両方を満たす河川
・各調査地点の BOD 年平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ
・各調査地点の BOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ　（0.5mg/ℓ：環境省の定める BOD の報告下限値）
＜対象河川＞
・一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川
・一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川

２．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

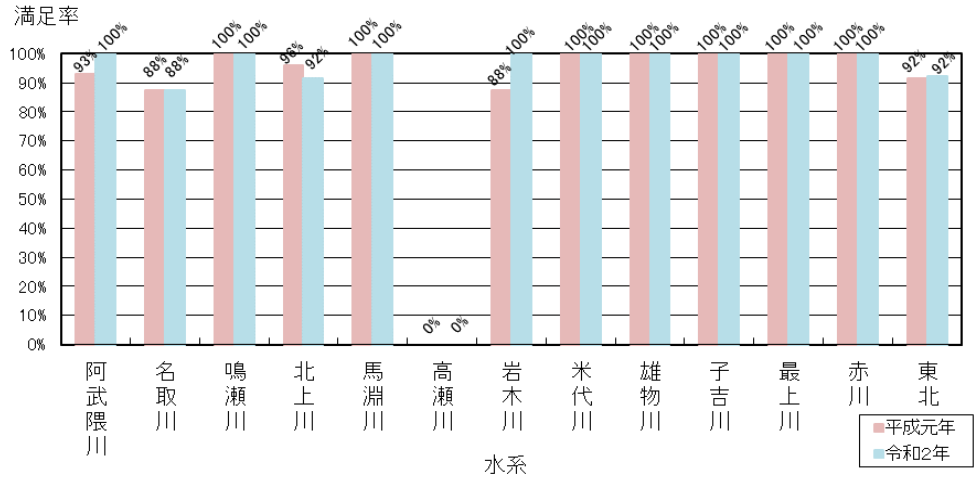
令和２年水質調査結果

生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。

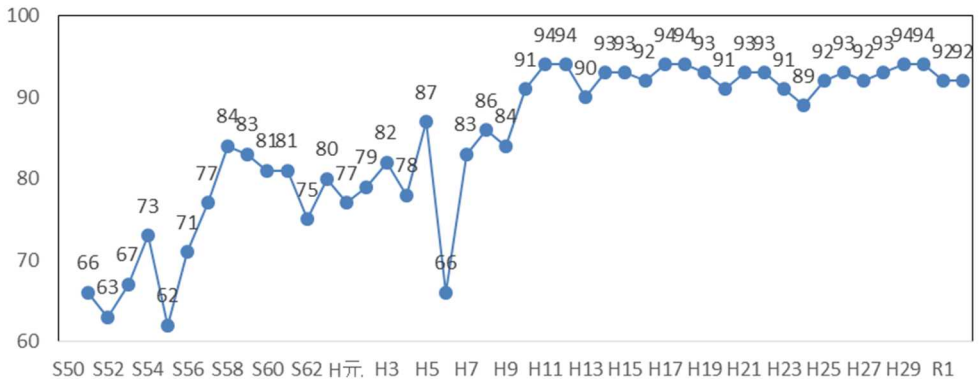
生活環境の保全に関する環境基準の調査項目	
ｐｈ（水素イオン濃度）	ｎ-ヘキサン抽出物質
ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）	総窒素
ＣＯＤ（化学的酸素要求量）	総リン
ＳＳ（浮遊物質量）	全亜鉛
ＤＯ（溶存酸素量）	ノニルフェノール
大腸菌群数	ＬＡＳ（直鎖ｱﾙｷﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝｽﾙﾎﾝ酸及びその塩）
	低層ＤＯ（溶存酸素量）

上記の水質調査項目のうち、水質有機汚濁の代表的な指標であるＢＯＤ値又はＣＯＤ値が環境基準値を満足した地点の状況は、１２水系中９水系で「１００％」の調査地点で満足する結果となっています。

（※高瀬川は、湖沼での調査地点が多いが、全国的にも湖沼の満足率は 41%と低い数値となっている）



ＢＯＤ値又はＣＯＤ値の満足状況の経年変化（東北地方整備局管内全調査地点）



※１　「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値で、川の一定区間毎に類型が指定されており、その類型毎に基準値が定められております。
一般に河川ではＢＯＤ７５％値、ダム・湖沼ではＣＯＤ７５％値で判断します。

３．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況

令和２年水質調査結果

人の健康の保護するうえでの基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。【２７項目】

人の健康の保護に関する環境基準の調査項目	
カドミウム	１，１，１－トリクロロエタン
全シアン	１，１，２－トリクロロエタン
鉛	トリクロロエチレン
六価クロム	テトラクロロエチレン
砒素	１，３－ジクロロプロペン
総水銀	チウラム
アルキル水銀	シマジン
ＰＣＢ	チオベンカルブ
ジクロロメタン	ベンゼン
四塩化炭素	セレン
１，２－ジクロロエタン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
１，１－ジクロロエチレン	ふっ素
シス－１，２－ジクロロエチレン	ほう素
	１，４－ジオキサン

上記の水質調査項目のうち、環境基準を満足できなかった調査地点及び項目は以下のとおりです。なお、砒素は自然由来、ふっ素は源水泉質の影響による原因と推定されています。

超過項目	地点名			最大値	年間平均値	環境基準値（年間平均値）	原因
	水系名	河川名	地点名	(mg／L)	(mg／L)	(mg／L)	
砒素	北上川	江合川	大深沢	0.023	**0.019**	0.010以下	自然由来
ふっ素	雄物川	玉川	玉川ダム	1.2	**0.88**	0.8以下	玉川源水泉質の影響

４．住民参加による水質調査

１）今後の河川水質管理指標による調査

河川をＢＯＤだけでなく多様な視点で評価する今後の河川水質指標による調査を、平成 17 年から実施しています。

この背景には、一級河川のＢＯＤ（またはＣＯＤ）値が環境基準値を満足している割合が 9 割に達し、水質改善が進む一方で、水質改善に伴い、人々が河川とふれあう機会が増え、河川の多様な生態系に対する関心が高まっているため、ＢＯＤだけでなく多様な視点で河川を捉えることが求められていることがあります。

調査内容には、住民等にご協力していただき評価していただく項目が含まれており、河川管理者だけでない、住民参加型の調査となっています。（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、生物の生息）

令和２年度の調査への住民等参加は、２水系２地点において、小中学生等の延べ３８人、２団体の参加を得て調査を実施しました。

（※水生生物による簡易水質調査参加人数との重複あり）

今後の河川水質管理の指標【４つの評価項目】（赤字が住民による評価項目）

① **「人と河川の豊かなふれあいの確保」**
水質に関係する分かりやすい指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数）により評価

② **「豊かな生態系の確保」**
水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと（DO）、毒性が無いこと（NH4-N）、生物が生息していること）により評価
（※HH4-N=アンモニウム態窒素：し尿や家庭下水中の有機物の分解に起因する）

③ **「利用しやすい水質の確保」**
上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標（ﾄﾘﾊﾛﾒﾀﾝ生成能、2-MIB、ジオスミン、NH4-N）により評価

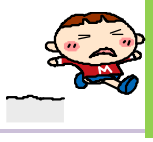
④ **「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」**
下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

①『人と河川の豊かなふれあいの確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	0	－
B	1	名取川水系　広瀬川/広瀬橋
C	1	阿武隈川水系　阿武隈川/天神
D	0	－
合計	2	－

※地点評価は、最も低いランクとし、年間の地点評価とも、最頻ランク（最頻ランクが２つ以上の場合は低い方）としている。

住民との協働項目

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1)				
			ゴミの量	透視度（cm）	川底の感触 ※3,4)	水のにおい	糞便性大腸菌群数（個/100mℓ）
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上 ※2)	不快感がない	不快でない	100 以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		1000 以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる 風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000 を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

※１　評価レベルについては、河川の状況や住民の感じ方によって異なるため、必要に応じて住民による感覚調査等を実施し、設定することとする。

※２　実際には100cmを超える水質レベルを設定すべきであり、今後の測定方法の開発が望まれる。

※３　川底の感触とは、河床の礫に付着した有機物や藻類によるヌルヌル感を対象とする。そのため、川底の感触は、ダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※４　感触の「不快感」については、各々以下のイメージである
A:素足で入りたいと感じる B:履物があれば入りたいと感じる C:履物をはいても入りたくない

②『豊かな生態系の確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	2	米代川水系　米代川/扇田橋 名取川水系　広瀬川/広瀬橋
B	1	阿武隈川水系　阿武隈川/天神
C	0	－
D	0	－
合計	3	－

住民との協働項目

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO(mg/ℓ) *1)	NH_4-N(mg/ℓ) *2)	水生生物の生息*3)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下	Ⅰ. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下	Ⅱ. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下	Ⅲ.きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの	Ⅳ. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

※1　「DO」：溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※2　「NH4-N」：アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

※3　水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※地点評価及び年間の地点評価とも、最も低いランクとしている。

③『豊かな生態系の確保（湖沼）』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	0	－
B	0	－
C	1	阿武隈川水系摺上川　摺上川ダム
D	0	－
合計	1	－

ランク	説明	評価項目と評価レベル	
		底層 DO（mg/L）	NH_4-N（mg/L）
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの

※1　「底層ＤＯ」：底層溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※2　「NH4-N」：アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

水生生物は水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これら水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価できます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

各水質階級を判断するための指標生物を設定しており、この生物により水質が判断されます。

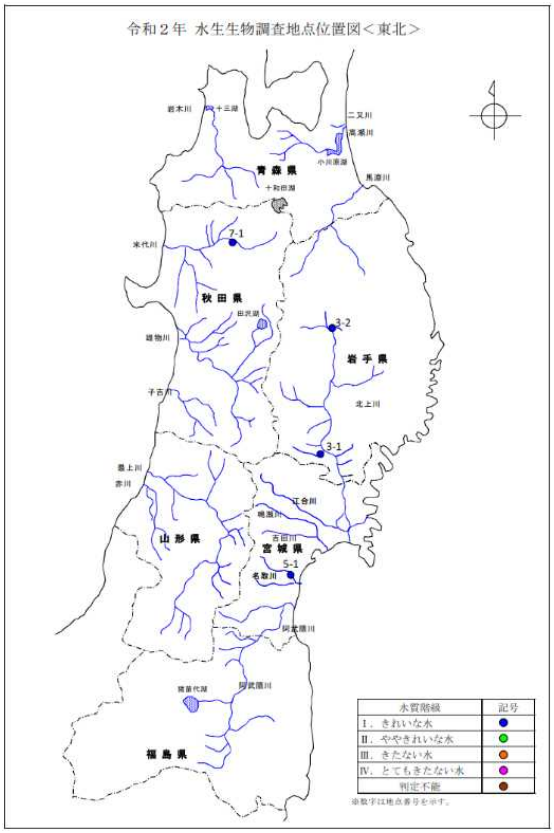
また、多数の地域の住民（小中学校等）に参加して頂き、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

令和２年度の調査への住民等参加は、３水系４地点において、小中学生等の延べ１７６人、４団体の参加を得て調査を実施しました。

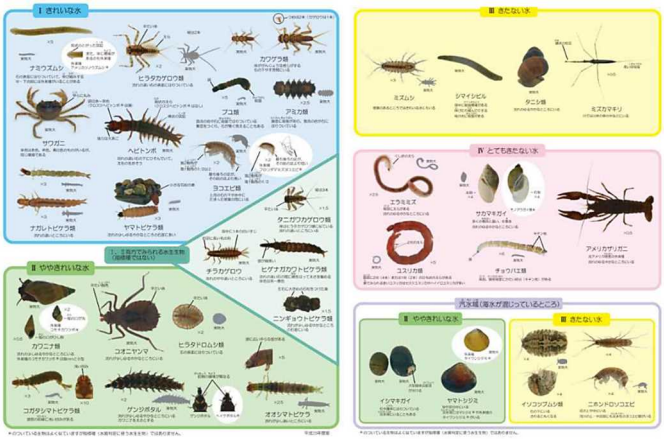
（※今後の河川水質管理指標による調査参加人数との重複あり）

【指標生物について】

①全国的に見つけることができ、ある程度の数がいて、夏の期間は必ずいる種。
②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単。
③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物。
④水深の浅いところ（水深 30cm 以下）に生息している生物。



水質階級と指標生物



水系名	河川名	地点番号	地点名
北上川	磐井川	3-1	下之橋下流
北上川	中津川	3-2	中の橋下流
名取川	広瀬川	5-1	広瀬橋
米代川	米代川	7-1	扇田橋

５．ダイオキシン類実態調査結果

ダイオキシン類とは、ダイオキシン類対策特別措置法に定義されている３種の化合物群です。毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで意図せずに生成され残留性が高い物質です。

令和２年度に実施したダイオキシン類の実態調査では、いずれの地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足しました。

ダイオキシン類（※1）については、平成 11 年度から管内 12 水系 56 地点において継続的に水質と底質の調査を実施しており、令和２年度は 12 水系 29 地点において調査を実施しました。
水質・底質ともに、年間の評価値では全地点で環境基準を満足しております。

調査結果の概要

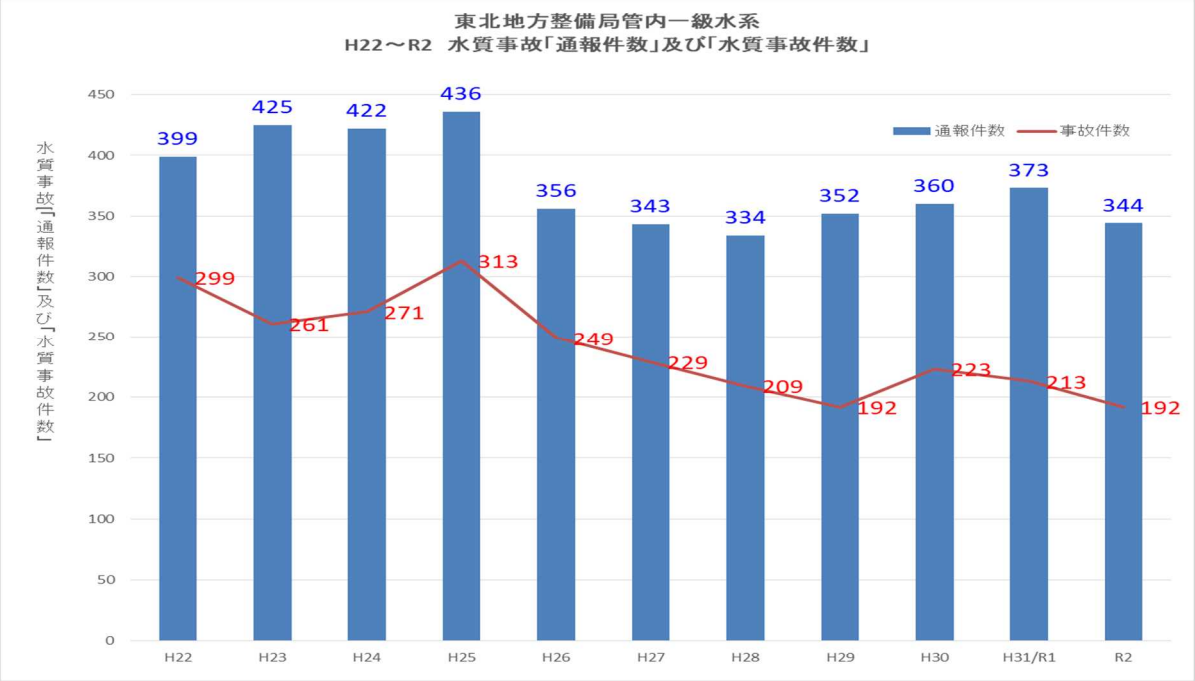
	調査地点数	要監視濃度※2を超えた地点数	環境基準値を超えた地点数
水質	29 地点	0 地点	0 地点
底質	29 地点	0 地点	0 地点

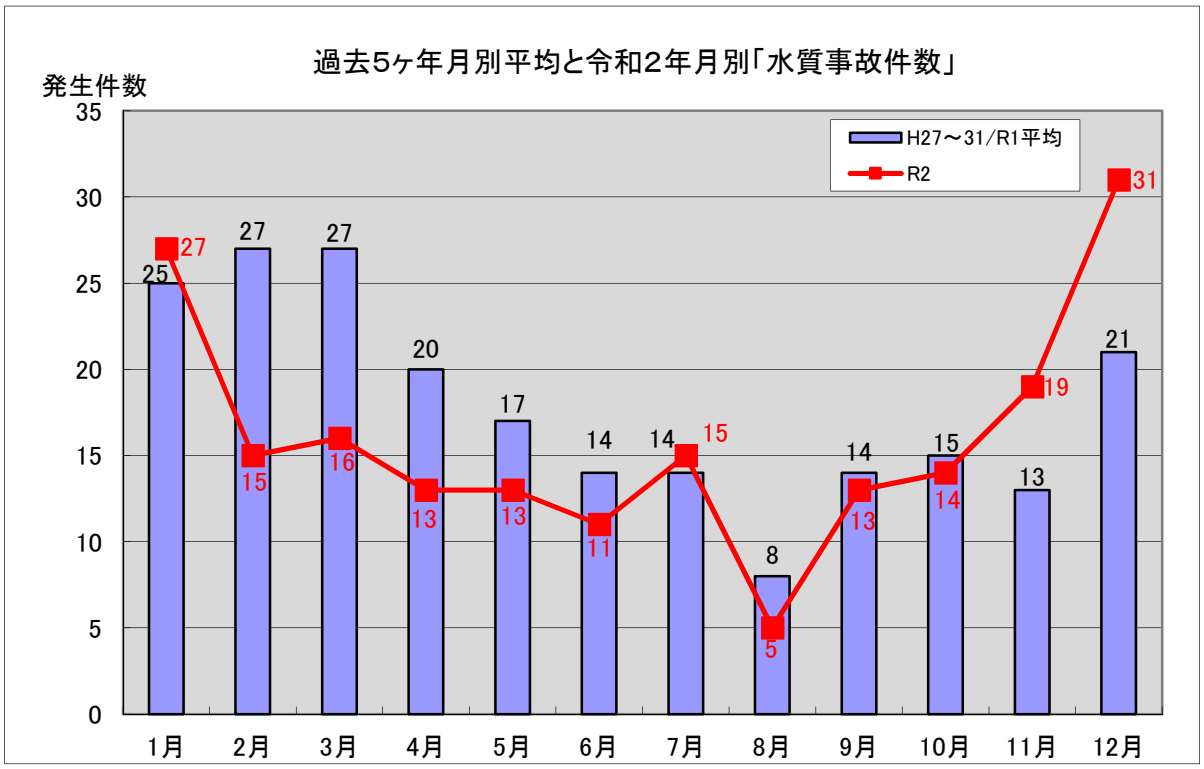
※1… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン』『ポリ塩化ジベンゾフラン』『ダイオキシン様塩化ビフェニル』の 3 種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。
※2… 国土交通省が重点的に監視する際の目安として定めている濃度で、環境基準値の 1／2。要監視濃度を超えた地点については、その後の調査で 8 回連続して要監視濃度を下回るまで、重点監視地点として年 4 回の調査（通常の調査地点は年 1 回）を実施する。

６．水質事故等の発生状況

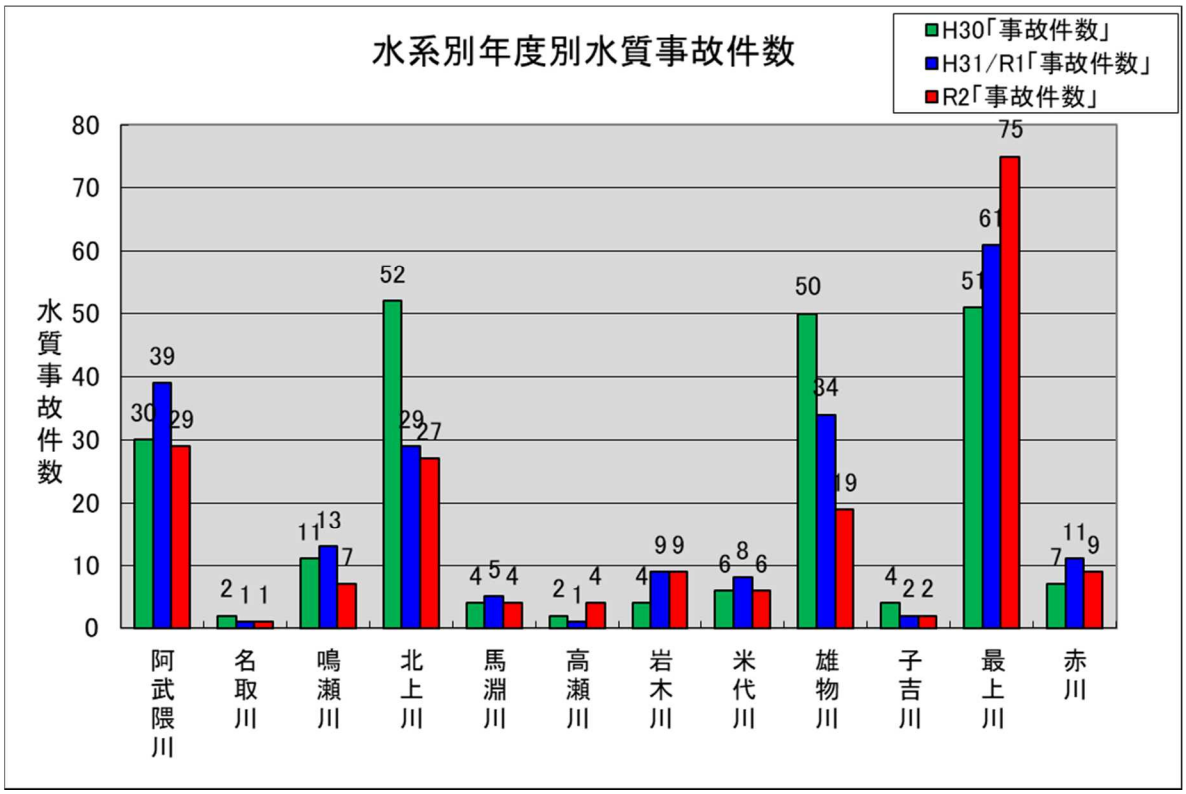
令和２年の東北地方整備局管内での水質事故「通報件数」は 344 件、内、公共用水域まで流出した「水質事故件数」は、192 件。迅速な対応により通報のあったものの半数以上が水質事故に至らずに処理されている状況です。

各水系毎に関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による水質汚濁対策連絡協議会を設立し、水質事故対応にあたっています。





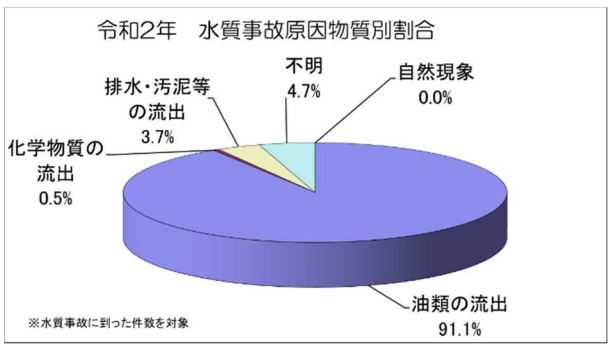
水系別では、北上川、最上川、阿武隈川、雄物川の水質事故が多い。

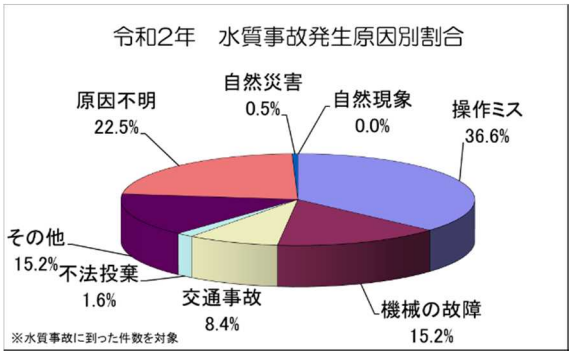


水質事故の原因は約９割が油の流出によるもの。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの、不注意によるものが多い。





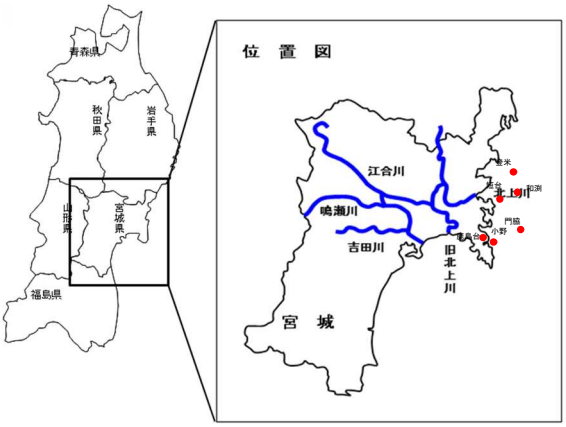




鳴瀬川･北上川（下流）　～水環境保全の取り組み～

鳴瀬川と北上川下流（宮城県内）の管理を担当している北上川下流河川事務所から、水環境保全の取り組みについて紹介します。

河川の概要



鳴瀬川は、源を宮城・山形県境の船形山に発し、奥羽山脈の山水を集めて、東へと下り、途中、田川、多田川、新江合川などと合流し、大崎平野を貫流しています。また、大崎市鹿島台で北泉ヶ岳から発する右支川・吉田川と併流しながら東松島市で合流し、石巻湾に注ぐ、幹川流路延長約 93 ㎞、流域面積 1,130 ㎢の一級河川です。

北上川は、源を岩手県岩手町御堂に発し、岩手県の中央をほぼ北から南に流れ、一関市下流の狭窄部を経て宮城県に入り、登米市津山町付近で北上川と旧北上川に分派します。北上川は、石巻市北上町で追波湾に注ぎ、旧北上川は、迫川・江合川などを合流して、石巻湾に注ぐ、幹川流路延長約 249 ㎞、流域面積約 10,150 ㎢の東北最大の河川です。

市民団体等による河川清掃活動の取り組み

河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を自発的に行うＮＰＯ法人等の民間団体を支援する「河川協力団体」という制度があります。北上川下流域には、現在６団体が河川協力団体に指定され、地域のみなさんと一緒に、河川清掃活動のほか河川の維持、河川環境の保全に関わる活動を行っています。

「ゴミをひとつたりとも見かけない、そんな山川海との付き合い方ができたらいいですね」

そうした思いで、河川の清掃活動に取り組んでいただいているのは、宮城県石巻市北上町を拠点とする「りあすの森」。上流の岩手県内のＮＰＯ法人との活動交流の一環として、上下流の地域住民が交流しながら河川清掃活動を行う中で、環境意識を高めようとする取り組みを行っていただいております。

また、その他の河川協力団体や鳴瀬川においても地域で活動されている団体による河川清掃を行っていただいております。


北上川河口の清掃活動(りあすの森)


河川清掃活動(ひたかみ水の里)

北上川下流河川事務所管内の河川協力団体

河川協力団体名	所在地
石巻千石船の会	宮城県石巻市
特定非営利活動法人　環境生態工学研究所	宮城県仙台市
とよま北上川かっぱの会	宮城県登米市
特定非営利活動法人　ひたかみ水の里	宮城県石巻市
水と緑の環境フォーラムものう	宮城県石巻市
特定非営利活動法人　りあすの森	宮城県石巻市


地元住民による鳴瀬川河川敷の清掃活動

コラム

水質汚濁対策連絡協議会の活動

河川水質汚濁対策及び河川環境の保全に関する関係機関相互の連絡調整を図ることを目的として、水系毎に県、市町村、消防、警察、水道部局、国土交通省、経済産業省などで構成する「水質汚濁対策連絡協議会」(以下、「協議会」という。)が設置されています。

鳴瀬川水系、北上川水系(下流)の協議会では、毎年、以下のような活動を行っています。

（１）水質事故対応に関する講習会の開催
（２）水質事故防止に関する広報の実施(市町村の広報、関係機関ホームページなど)
（３）「川をきれいに」をテーマにした図画・ポスターのコンクール(小学生対象)
（４）水生生物による簡易水質調査(小中学生対象)

（１）水質事故対応に関する講習会の開催

灯油等を扱う機会が多くなる冬季を前に、北上川(宮城県)、江合川、鳴瀬川沿川の水質事故対応担当職員を対象に、水路や河川等への油流出・拡散防止方法を習得し、水質事故の適切な対応を図るため、毎年開催しています。

講習参加者に実際にオイルフェンスを設置してもらうなど体験型講習にすることで、より理解度を深めていただくように努めています。



講習参加者によるオイルフェンス設置訓練

（２）水質事故防止に関する広報の実施

毎年、油漏れなどの水質事故が発生しており、市町村の広報、水対協の関係機関のホームページ、新聞広告等により、水質事故防止に関する広報を行っています。



水質事故防止（注意喚起）に関する新聞広告

（３）「川をきれいに」をテーマにした図画・ポスターのコンクール

宮城県内の流域市町村の小学生を対象に「川をきれいにする」ことについて認識を深めてもらうために実施しています。

毎年、応募学校数は 90 校以上、図画及びポスターで 900 点を超える作品を応募いただいています。（※令和 2 年度は中止）

令和元年度児童図画コンクール【図画部門】特選作品


（北上川水系）


（鳴瀬川水系）

コラム

令和元年度児童図画コンクール【ポスター部門】特選



（北上川水系）



（鳴瀬川水系）

（４）水生生物による簡易水質調査

水生生物調査は、29 種類の水の中にすむ生きものを指標として、どの生きものが川に多く見られたかを調べることで、水のよごれの程度を判定する調査です。

小中学生を対象に、身近な河川の水質状況を知ってもらうとともに、河川の水質改善の必要性や河川愛護の重要性を認識してもらうため実施しています。



水生生物による簡易水質調査（生物の採集）



水生生物による簡易水質調査（採集した生物の確認）

おわりに

これからも流域に住むみなさんや関係機関の協力と連携により、鳴瀬川と北上川下流のよりよい水環境を保全していきます。

(参考)

国土交通省　東北地方整備局　北上川下流河川事務所ホームページ

http://www1a.thr.mlit.go.jp/Bumon/J74201/homepage/index.html

北上川下流河川事務所管内の水質事故防止の取り組み

http://www1a.thr.mlit.go.jp/Bumon/J74201/homepage/construction/mantenance/

参考資料

河川の水質現況（BOD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	令和2年 環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.1	1.2	○
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	2.0	2.5	○
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.2	1.3	○
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	2.4	2.9	○
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.7	2.1	○
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	1.1	1.4	○
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.3	1.5	○
阿武隈川	広瀬川	舟場	B	0.8	0.9	○
阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	荒川	信夫橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	釈迦堂川	下宿	B	1.0	1.1	○
阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.5	<0.5	○
阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	0.9	1.0	○
名取川	広瀬川	三橋	B	0.9	1.0	○
名取川	前川	北向橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	北川	北川橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	名取川	名取橋	B	1.1	1.2	○
名取川	名取川	閖上大橋	B	0.9	0.9	○
名取川	笊川	名取川合流前	C	1.0	1.1	○
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.2	1.3	○
鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.2	1.2	○
鳴瀬川	善川	善川橋	B	0.9	1.0	○
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	0.7	0.9	○
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	0.7	0.7	○
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	0.7	0.7	○
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	0.7	0.8	○
北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	1.4	1.6	○
北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	0.6	0.7	○
北上川	猿ヶ石川	谷内	A	0.7	0.9	○
北上川	旧北上川	鹿又	B	0.8	1.0	○
北上川	旧北上川	門脇	B	0.8	0.8	○
北上川	旧北上川	和渕	A	0.8	0.8	○
北上川	江合川	荒雄	B	0.8	1.1	○
北上川	江合川	轟	AA	0.6	0.6	○
北上川	江合川	大深沢	AA	0.8	<0.5	○
北上川	江合川	短台	B	0.9	1.0	○
北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.7	1.0	○
北上川	零石川	東北本線鉄橋	A	0.8	1.0	○
北上川	零石川	御所ダム下流	A	0.6	0.7	○
北上川	零石川	春木場	A	0.5	0.5	○
北上川	葛根田川	葛根田	A	0.5	0.6	○
北上川	南川	南川	A	0.5	<0.5	○
北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.6	<0.5	－
北上川	小友川	小友橋	A	0.6	0.5	○
北上川	前川（北上川水系）	前川	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	再巡橋	A	1.1	1.7	○
北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.6	0.6	○
北上川	中津川	御厩橋	A	0.7	0.9	○
北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	1.1	1.3	○
北上川	磐井川	上の橋	A	0.7	0.6	○
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.3	1.8	○
北上川	北上川	狐禅寺	A	1.0	1.2	○
北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.3	1.6	○
北上川	北上川	四十四田橋(2)	A	0.8	0.9	○
北上川	北上川	紫波橋	A	1.1	1.2	○
北上川	北上川	昭和橋	A	1.3	1.5	○
北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.7	0.7	○
北上川	北上川	大泉	A	0.8	0.9	○
北上川	北上川	朝日橋	A	1.3	1.6	○
北上川	北上川	登米	A	0.8	0.8	○
北上川	北上川	藤橋	A	1.4	2.1	
北上川	北上川	南大橋	A	0.9	1.0	○
北上川	北上川	飯野川	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	飯野川橋	A	0.6	0.5	○
北上川	北上川	北上川橋	A	0.9	1.1	○
北上川	北上川	北上大橋	A	0.8	0.9	○
北上川	和賀川	九年橋	A	1.1	1.4	○
北上川	和賀川	山室橋	AA	0.6	0.6	○
北上川	和賀川	切留	AA	0.7	0.6	○
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.8	0.9	○
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.7	0.7	○
馬淵川	馬淵川	大橋	B	0.7	0.8	○
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.6	○
岩木川	岩木川	乾橋	A	1.6	1.6	○
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.4	1.6	○
岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.8	1.9	○
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.0	1.2	○
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	2.0	1.6	○
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.6	0.6	○
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.2	1.3	○
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.8	1.3	○
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.5	1.6	○
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	1.5	1.8	○
岩木川	岩木川	幡龍橋	A	1.2	1.2	○
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.7	0.8	○
岩木川	平川	平川橋	A	0.8	0.9	○
岩木川	平川	豊平橋	A	0.8	0.8	○
米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.9	1.1	－
米代川	米代川	十二所	B	0.7	0.7	○
米代川	米代川	新真中橋（真中橋）	B	0.6	0.6	○
米代川	米代川	鷹巣	B	0.7	0.7	○
米代川	米代川	二ッ井	B	0.6	0.6	○
米代川	米代川	能代	B	0.7	0.8	○
雄物川	横手川	藤木上橋	B	1.0	1.1	○
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.6	0.6	○
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	<0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.5	0.6	○
雄物川	玉川	長野	A	0.5	<0.5	○
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.5	0.5	○
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.6	0.6	○
雄物川	雄物川	酒蒔橋	A	0.5	<0.5	○
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.8	0.8	○
雄物川	雄物川	椿川	A	0.7	0.8	○
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.6	0.7	○
子吉川	子吉川	宮内	A	0.7	0.8	○
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.5	<0.5	○
最上川	寒河江川	中村	AA	0.7	0.9	○
最上川	最上川	碁点橋	A	1.6	1.8	○
最上川	最上川	谷地橋	A	1.1	1.3	○
最上川	最上川	糠野目	A	1.2	1.5	○
最上川	最上川	高屋	A	0.6	0.7	○
最上川	最上川	砂越	A	0.7	0.7	○
最上川	最上川	長井橋	A	1.3	1.7	○
最上川	最上川	堀内	A	0.9	1.0	○
最上川	最上川	両羽橋	A	0.7	0.7	○
最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.6	0.6	○
最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.5	<0.5	○
最上川	須川	落合橋	B	1.0	1.3	○
最上川	相沢川	宝永橋	A	0.6	0.5	○
最上川	村山野川	舟戸橋	A	1.4	1.8	○
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.7	0.7	○
最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.8	1.0	○
最上川	置賜野川	長井ダム	A	1.0	1.1	○
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	<0.5	<0.5	○
赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	A	0.6	0.7	○
赤川	赤川	新川橋（浜中）	A	0.6	0.7	○
赤川	赤川	東橋	A	0.5	<0.5	○
赤川	梵字川	月山ダム	A	0.6	0.6	○

河川の水質現況（COD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	令和2年 環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	2.2	2.4	○
名取川	碁石川	釜房ダム	AA	2.3	2.7	
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	3.2	4.3	
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	2.2	2.6	
北上川	零石川	御所ダム貯水池	A	1.9	2.4	○
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.1	2.2	○
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	2.6	3.3	
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.3	3.8	
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.3	3.9	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	3.7	4.1	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	3.5	3.8	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	13.0	14.1	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	3.6	3.7	
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.5	2.6	○
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	2.3	2.7	○

●河川における類型別環境基準（ＢＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：2ｍｇ／Ｌ以下

B 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

C 類型：5ｍｇ／Ｌ以下

D 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

E 類型：10ｍｇ／Ｌ以下

●湖沼における類型別環境基準（ＣＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

○印：環境基準を満足した地点、－印：環境基準類型指定が未設定の地点

令和２年東北地方一級河川の水質現況　概要パンフレット

Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

http://www.thr.mlit.go.jp/

国土交通省 東北地方整備局

河川部 河川環境課

〒980-8602

仙台市青葉区本町 3-3-1　仙台合同庁舎Ｂ棟

Tel. 022-225-2171（代表）

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau